

以後、ギリシア系諸勢力が相次いでインドに進出したことを説明しよう。(一2)

インド全体を統治したわけではなく、(ガズナ朝が)インドへの侵攻を繰り返した」といった表現が適切である。

「ゴール朝も北インドへ侵入を繰り返した」ことに触れたい。(一2)
また、奴隷王朝を建てたアイバクは、ゴール朝の武将であった。(一2)

バラモン教を成立させたことにも言及しよう。(一3)

前1500年頃、まずはアソヤ人がカイバル峠を越えてインドへと侵入してきた。彼らはインド征服の過程で現在のカースト制につながる身分階層であるヴァルナを形成した。マケドニアはアレクサンドロス大王の時代に、その領土がインドと接するまでになった。その後のインドでは、前4世紀の末頃にインド初の統一王朝であるマウリヤ朝が成立し、第3代のアショーカ王の時代に最盛期を迎えた。彼の時代には仏典結集も行われるなど、仏教が広がっていた。次に1世紀頃にはクシャーナ朝が成立し、カニシカ王の時代に最盛期を迎えた。また、この時代にはガンダーラ美術が生まれた。その後はグプタ朝、ヴァルダナ朝と続いたが、10世紀頃にはイスラーム系のガズナ朝による支配を受けるようになった。この王朝の武将であったバーブルが、デリーを首都とする奴隷王朝を成立させた。その後、ハルジー朝、トウグルク朝、サイイド朝、ロディヤ朝とデリーを首都とする王朝が興亡した。ロディヤ朝に対してアイバクが攻撃をしかけ、16世紀前半には、イスラーム国家であるムガル帝国が建国された。

本問では、「カイバル峠を経てインドに進出した主な勢力」について説明することが求められているため、マウリヤ朝・グプタ朝・ヴァルダナ朝の記述は不要。
但し、クシャーナ朝については、「文化的影響」の面から言及が必要である。

ムガル帝国の建国者は「バーブル」である。(一1)
また、彼は「中央アジアから(インドに)侵入した」ことにも触れよう。(一1)

ムガル帝国では「インド=イスラーム文化が成熟した」ことを説明する。(一3)

<合格への一手>

[本問のポイント] 古代～16世紀のインド史の知識は概ね身につけていますが、やや事実誤認が散見されます。また、本問は「インドに進出した勢力」「文化的影響」に着目してまとめる必要があります。要求に沿った形で、事項を取捨選択することを心がけましょう。

[要復習] 教科書などでインドの文化的特徴とその時代背景を確認し、解答解説編の「解法」で要求の読み取りと用語の適切な使い方を確認しましょう。

(※解答欄は以上です。裏面にある「答案感想欄」にもご記入ください。)